

第4回岩手県総合計画審議会 若者・女性部会

日時 令和8年6月18日（木）13:30～15:30

（オンライン開催）

次 第

1 開会

2 議事

(1) これまでの議論（第1回～第3回）の総括

3 その他

4 閉会

若者・女性部会委員

(敬称略・五十音順)

(R8. 4. 1～)

| 氏名 | 所属等 | 備考 |
|-------|----------------------------|----|
| 牛崎 志緒 | ジョブカフェいわて | |
| 西條 匡杜 | 地域志向型インターンシップネットワーク in いわて | |
| 櫻井 陽 | 一般社団法人いわて地域おこし協力隊ネットワーク | |
| 佐藤 柊平 | 一般社団法人いわて圏 | |
| 藤 瑠杏 | 岩手わかすフェス実行委員会 | 欠席 |
| 山影 峻矢 | manorda いわて株式会社 | |
| 山屋 理恵 | 岩手県男女共同参画センター | 欠席 |
| 吉田 知世 | 岩手わかすフェス実行委員会 | 欠席 |

若者・女性部会 及び審議等の進め方について

1 若者・女性部会について

■ 設置の目的

若者や女性の視点から本県の現状や課題、今後の取組の基本的な方向性等について御議論をいただき、得られた御意見などを次期アクションプラン、地方版総合戦略等の策定及びその推進に生かしていくこと。

■ 構成

別紙名簿のとおり。

■ 今後の予定

| | 議題・テーマ（方針） | 開催時期 |
|----------------|-----------------------------|------------------|
| 第1回（終了） | ・地方創生10年の成果と課題 | 令和7年12月22日 |
| 第2回（終了） | ・一人ひとりの希望の実現 | 令和8年5月15日 |
| 第3回（終了） | ・希望が実現できる社会 | 令和8年5月27日 |
| 第4回（今回） | ・これまでの議論（第1回～第3回）の総括 | 令和8年6月18日 |

※ 部会は公開で開催する。また、各回の議事要旨等も公表する。

■ 議事(1) これまでの議論（第1回～第3回）の総括

- ・ 事務局からこれまでの議論の総括について説明します。
その後、委員の皆様から御意見をいただきます。

■ その他

- ・ その他、御意見などがありましたら御発言願います。

【第4回】
これまでの議論
(第1回～第3回) の総括

1 前回まで（第1回～第3回）の振り返り

第1回 地方創生10年間の成果と課題を共有し、若者・女性の現状認識を確認

▶ 若者・女性の現状認識

- ・働き方や定住観など個人の意識・行動が多様化
- ・県外における岩手とのつながりの希薄化
- ・人口減少など社会構造の変化を踏まえた施策の検討が必要

施策の方向性に関する観点

希望の後押し
つながりの拡大
変化に適応するアプローチ

第2回 希望を制約する要因を洗い出し、議論の内容を体系化

▶ 希望を制約する主な要因

- ・選択肢不足（仕事・情報）
- ・生きにくさ（地域社会・文化）
- ・将来不安（経済・ライフプラン）

▶ 「希望の後押し」に必要な特に重視すべき視点

- ① つながりの拡大 ② 変化に適応するアプローチ

▶ 希望の後押しには、

「可能性の拡大」と「安心」の両輪が不可欠

体系化

希望の実現

希望の後押し

《可能性の拡大》挑戦できる等

《安心できる》失敗しても大丈夫等

① つながりの
拡大

② 変化に
適応

第3回 希望を後押しするための社会のあるべき姿を議論

▶ 希望を後押しする社会に必要な視点

- ・多様な生き方や価値観が認められ、「こうあるべき」に縛られない
- ・やりたいことができ、たとえ失敗しても受け皿がある
- ・行政・企業・地域が、若者・女性の価値観やライフスタイルの変化に対応できる

希望の実現

希望の後押し

現状・課題

- 地元には「やりたい仕事がない」という認識が、県外流出の要因にもなっており、県内で挑戦・成長できるイメージが十分に持たれていない。
- 若者・女性の間では、奨学金負担や低賃金、将来の不安を背景に、「やりたいこと」よりも「失敗しない選択」を優先する傾向がある。
- 結婚・出産・働き方などに関する固定的な価値観やアンコンシャス・バイアスが、個人の希望や選択を狭めている。

社会のあるべき姿

- ▶ やりたい仕事や挑戦したい活動が、将来の選択肢としてイメージできる。
- ▶ 挑戦やキャリア形成に失敗しても、生活が維持でき、安心してチャレンジできる。
- ▶ 希望や価値観を大切にしながら、多様な生き方・働き方を選択できる。

希望の後押し

つながりの拡大

現状・課題

- 県外進学・就職後は、岩手の情報や地域との接点が減少し、地元を選択肢として考える機会が少なくなっている。
- 岩手の企業や地域情報は、自ら探しに行かなければ届きにくく、知らないまま選択肢から外れてしまっている。
- 岩手で挑戦している人や多様な働き方・暮らし方のロールモデルに触れる機会が少ない。
- 地域との関わり方が「定住」中心に捉えられがちで、多様な関わり方の受入れが十分ではない。

社会のあるべき姿

- ▶ 企業や地域の魅力が岩手への関心層・潜在層に届きやすく、自然に岩手が選択肢として認識される。
- ▶ 県内で働く人や地域で活動する人、県外から関わっている人など、多様なロールモデルに触れることができる。
- ▶ 定住だけではなく、関係人口や副業など、地域との多様な関わり方が尊重される。

希望の後押し

変化に適応するアプローチ

現状・課題

- 人口減少が進行する中で、従来型の社会・働き方・地域運営のままでは持続が難しくなっている。
- 若者・女性の価値観やライフスタイルの変化に対し、地域や企業側の受け止めが十分に追いついていない。
- ジェンダーや役割意識に基づく無意識の偏見が依然として存在し、多様な生き方や希望を抑制している。
- 地域の人間関係における過度な干渉が、生きづらさや戻りにくさにつながっている。

社会のあるべき姿

- ▶ 社会経済情勢や価値観の変化を捉え、行政、企業、地域など社会全体で多様な生き方・働き方が受け入れられる。
- ▶ アンコンシャスバイアスの気づき・見直しやジェンダーギャップの解消により、若者・女性が「生きやすい」と感じられる。
- ▶ 地域との関係性において、つながる安心感と、干渉され過ぎない適度な距離感の両方が大切にされている。

若者・女性が特に重視する視点

- ▶ 個人の選択や価値観を認め合う社会
- ▶ やりたいことができ、失敗しても大丈夫な環境
- ▶ アンコンシャスバイアスの気づき・見直し
ジェンダーギャップの解消